

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

江戸時代前期の名所の風景
松島鹽竈図屏風 長谷川宗圓筆

仙台市博物館 学芸企画室 酒井昌一郎

第13回

屏風の概要

今回は、江戸時代前期の松島・塩竈の景観を描いた松島鹽竈図屏風を紹介しますが、現在は塩竈を描く左隻のおよそ半分が失われています。屏風には海から陸に向かって松島・塩竈が描かれ、大きく配された松島の瑞巖寺と鹽竈神社の周囲に、町の建物や行き交う人々、海上の船などが細かく描かれています。地面の金色と海の群青が対比的に画面を構成し、変化に富んだ形の島々と共に、細部まで見ごたえのある屏風となっています。

描かれた景観

瑞巖寺と鹽竈神社は、どちらも伊達政宗による仙台開府後に新しい建物が建てられ、鹽竈神社には慶長一二年（一六〇七）の棟札の写しが、瑞巖寺には同一四年の棟札が残されています。瑞巖寺に現存する建物を屏風と比較すると、主な建物の配置や形式が正確に描かれていることが分かります。鹽竈神社ではこの時の建物が現存していませんが、おそらく、同様の正確さで描かれていた

ことでしょう。屏風を描いた絵師・長谷川宗圓が松島・塩竈を訪れたことは確認できませんが、下絵は実際の建物をもとに描かれたものと言えます。

整備された名所

松島・塩竈では、政宗による寺社の造営以後も継続的に周辺の整備が実施されました。松島では政宗が没した寛永一三年（一六三六）から同一九年頃に瑞巖寺と周辺の寺社が整備され、鹽竈神社でも同一三年から同一一年に境内の建物が造立されています。屏風にはこれら寛永年間末頃の建物が数件確認でき、描かれた景観の年代を考える手がかりとなっています。

瑞巖寺と鹽竈神社は、仙台開府以前から規模の大きな門前を有していたとも考えられますが、この屏風のように人々が行き交う景観は、政宗以後も継続された整備によって次第に定着したのではないのでしょうか。屏風には、こうした整備が進捗した名所の様子が描かれたと考えられ、現在も多くの人々が訪れる景勝地のかつての様子をうかがい知ることができま



松島鹽竈図屏風(左隻・部分) 鹽竈神社 仙台市博物館蔵



同(右隻・部分) 瑞巖寺 仙台市博物館蔵

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」(二次元コード)からご覧いただけます。



仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM



〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
【観覧料】一般1,200円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)
【休館日】毎週月曜日(8/11は開館)、8/12(火)
TEL:022-225-3074 博物館X(旧ツイッター):@sendai_shihaku

仙台市・宇和島市
歴史姉妹都市提携50周年記念特別展

令和7年
7月4日(金)

8月24日(日)

伊達を
継ぐもの
— 仙台藩を築立った
殿様たち



資料／宇和島市指定文化財 伏見御殿屏風(花鳥図)(部分) 吉岡由呂氏撮影、桜銀葉威二板画(写定) 伊達宗實所用(以上、公財) 宇和島伊達文化保存会蔵、竹に農三引向紋社丹唐草時絵女乗物 伊達村寿至順姫所用(東京市立美術館蔵)